

病害虫発生予察注意報 第4号

病害虫名 イネいもち病(穂いもち)

- 1 発生予想 今後の天候によって、穂いもちが多発する恐れがある。
- 2 対象地域 県下全域
- 3 根拠

- (1) 7月14日付で発生予察注意報第1号(イネいもち病(葉いもち))、7月26日付で第3号(イネいもち病(早生品種の穂いもちと中・晩生種の葉いもち))を公表し、防除の徹底を喚起したところであるが、8月上旬における葉いもちの発生は非常に多く(表1)、上位葉にもかなりの病斑が見られている。このため穂いもちへ移行しやすい状態となっている。
 - (2) 葉いもち発生予測モデルBLASTAM及びBLASTAM-NAGANOによると7月下旬の感染好適条件出現回数は多く(表2)、これと8月上旬の葉いもちの発生量から予測される穂いもちの発生面積率は平年を大きく上回っている(表3)。
 - (3) 現在水稻の生育は平年並みからやや遅れており、主要品種は止葉展開期から穂ばらみ期となっていて、穂いもちの感染に危険な時期である。
 - (4) 7月28日気象庁発表の1ヶ月予報によると平均気温は平年並みが高く、降水量は平年並みとなっており、平年並に夕立等の降雨があれば葉いもちから穂いもちへ移行する恐れがある。
- 以上のことから、今後降雨があれば穂いもちの多発が予想される。

4 防除対策と留意点について

- (1) 葉いもちの発生の多いほ場では、液剤や粉剤を穂ばらみ期と出穂期に2回散布する。出穂期前後に曇雨天が続く場合には、さらに出穂5日後と10日後に追加散布を行う。
- (2) ほ場抵抗性の弱い品種(コシヒカリ、キヌヒカリ等)及び多肥ほ場については、特に防除を徹底する。
- (3) 苗箱施薬により、いもち病の予防を行っているほ場では葉いもちの発生が抑えられているが、穂いもちに対する効果は期待できない。上位葉に病斑が見られる場合には防除を徹底する。
- (4) 農薬散布にあたっては、周辺作物への飛散防止に十分注意する。
- (5) 使用農薬は長野県農作物病害虫・雑草防除基準に基づいて選定する。また、薬剤の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守する。なお、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一系統剤の連用を避ける。
- (6) 今後の発生予察情報及び気象情報に留意する。

病害虫防除所 所長 篠原初
担 当 発生予察チーム 和田美佐
電 話 026-248-6471
F A X 026-248-1069
電子メール bojo@pref.nagano.jp

表1 8月上旬葉いもち平均発病株率 %

	調査地点数	本年	平年
東信	16	99.3	42.3
南信	20	14.5	19.4
中信	21	37.6	19.4
北信	17	69.9	33.8
県	74	47.7	24.6

平均発病株率：病害虫防除所巡回調査地点の発病株率を地域ごとに単純平均したもの

表2 8月上旬上位葉平均発病株率 %

	本年	平年
東信	16.9	5.1
南信	1.7	0.8
中信	7.2	0.7
北信	1.5	4.9
県	6.6	2.7

上位葉平均発病株率：病害虫防除所巡回調査地点の上位葉（止葉・次葉）の発病株率を地域ごとに単純平均したもの。ただし、東北信の多くは止葉展開中であり、次葉のみのカウントである。

表3 BLASTAM 及びBLASTAM-NAGANO による葉いもち感染好適条件の判定結果（平成18年）

地 点 月日	野 信 飯 長 信	白 大 穂 松 奈 榎 木 南 開	上 東 軽 立 佐	諏 高 辰 原 飯 飯 浪 南
	濃 町 山 野 新	馬 町 高 本 川 川 福 曾 田	田 市 沢 科 久	訪 遠 野 村 島 田 合 濃
7/14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				-
21				-
22				-
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				

：好適条件 ：準好適条件（好適条件にやや満たないもの） - ：欠測
 ：準好適条件の内、濡れ時間の平均気温または前5日の平均気温が18℃以下

表4 穂いもち発生面積割合（%）

H18	平年	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8
9.7	4.8	4.8	8.0	7.2	0.7	3.4	3.7	6.9	5.2	4.3	3.3

注）H18 は予測値（BLASTAM-NAGANO の7月下旬の推定発生面積増加量と8月上旬の葉いもちの発生量から予測）